



◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン（第 36 号 2015/3/10 発行）



<http://www.iima.or.jp/>



◇1. 理事長 行天豊雄 コラム◇

自分誉めの罫

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2015/20150310gyoten.pdf>

最近いささか気になるのは日本のメディアに見られる「自分誉め」の繁盛ぶりである。テレビも印刷物も日本の良さと強みを自賛するニュースに満ちている。曰く、…

◇2. 専務理事 倉内宗夫 コラム◇

モディ首相が日本に期待するもの

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2015/20150310kurauchi.pdf>

去る 1 月にモディ首相出身のグジャラート州で開催された投資誘致イベント Vibrant Gujarat に参加した。オープニングセレモニーにスピーカーとして登壇した国連事…

■IIMA Global Market Volatility Index・購買力平価グラフの更新■

<http://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>

◀掲載内容▶

- IIMA Global Market Volatility Index
（グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数）
- 購買力平価グラフ
（ドル円）（ユーロドル）（ユーロ円）

■今月の新着レポート■

1. 「ユーロ圏周縁国の経済動向

～アイルランドはソブリン債務危機を脱したと評価できるか～ 山口綾子

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_8_j.pdf

2013 年末にトロイカ支援を卒業したアイルランドは、概ね順調な回復を続けてきた。ユーロ圏の景気低迷長期化、ギリシャ支援交渉難航など

スク要因は多いが、米英の景気回復を背景に当面は堅調な回復過程を辿るとみられる。

2. 「ロシア経済悪化の欧州連合（EU）経済への影響」 山口綾子

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_7_j.pdf

ウクライナ情勢悪化に伴う日米欧の対ロシア経済制裁に、原油価格の低迷も加わり、ロシア経済は大きく悪化している。本稿ではこうしたロシア経済悪化の欧州連合に与える影響を貿易、投資、金融面から分析する。

3. 「ユーロ圏経済の動向 ～ギリシャ不安再燃に揺れるユーロ圏経済～」 山口綾子

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_6_j.pdf

2012年後半以降着きを見せていたユーロ圏金融市場は、ギリシャの政局不安を背景に若干変化がみられる。他方、実体経済面では緩やかながらプラス成長を維持している。こうしたユーロ圏経済の動向について解説したレポート。

4. 「1 バレル 50 ドルまで低下した原油価格と世界経済」 佐久間浩司

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_5_j.pdf

過去の長期的な原油の生産、消費、価格の動向を振り返りながら、50ドル/バレルまで下落した現在の原油価格が消費国や産油国に与える影響を考察する。

5. 「トルコの国情調査

～悪化する経済情勢と権勢強化を目指すエルドアン大統領～」 中村明

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_4_j.pdf

巨額の経常赤字および短期対外債務という従来からの悪材料に目立った変化はなく、さらに、①海外経済環境の悪化による輸出伸び悩み、②国内景気の減速、③米国金融緩和の縮小というマイナス要因が加わるため、当面の経済状況は厳しくみる必要がある。

6. 「モンゴル経済の現状と課題 ～注目される国際収支の動向～」 井上裕介

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_3_j.pdf

豊富な鉱物資源の埋蔵量を誇り、高成長が期待されたモンゴル経済だが、足元では外貨資金繰りの悪化を受けて苦境に立たされている。国際商品市況や外国直接投資の回復がなければ、再び経済危機に陥る可能性も否定できないだろう。

3月4日、恒例の IIMA 国際金融シンポジウム（第 24 回）は「グローバル経済～米国金融政策正常化への備えは十分か～」とのタイトルのもと、400 名以上の参加者を得て開催されました。経済についての議論では、一人勝ちの米国経済や、低迷する欧州の中で相対的に堅調なドイツのどちらも、いち早く構造改革に取り組んできたことが奏功。各国とも構造改革を推進することによって、来るべき米国の金融政策正常化後も、より柔軟に政策対応を行える体質を培うことが求められる、というのがひとつのコンセンサスだったと思います。また金融産業、金融規制の在り方についても活発な議論が繰り広げられました。追って IIMA ホームページに議論の内容を掲載しますので、ご覧ください。

今年度の IIMA の新規事業としては、GLMV の債券市場監督機関の職員を招請して研修を実施したことがあげられます。3 月中にアフターケアも兼ね GLMV 各国に出張する予定です。来年度も研修事業の拡大を図るべく検討に入りました。

【バックナンバー】 <<http://www.iima.or.jp/mailmagazine.html>>

【次号】2015 年 4 月 14 日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】 <<https://m.entryform.jp/m/iima/>>

【各種お問い合わせ】 admin@iima.or.jp

※閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから

→<<http://get.adobe.com/jp/reader/>>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

◇発行◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

Copyright (C) IIMA All Rights Reserved.